

タイトル

米作りとしめ縄作りを通して利用者が「主役」になれる支援の試み

事業所

豊島区社会福祉事業団・高齢者在宅サービスセンター上池袋豊寿園

発表者：岸本 稔（きしもと みのる）

アドバイザー：

共同研究者：安部 英助

電話

03-5974-7260

E-mail

kamiike@toshimaj.or.jp

FAX

03-5974-7259

URL

http://toshimaj.or.jp

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

平成 11 年 7 月池袋駅近くの区立施設「健康プラザとしま」の 2 階に開設し、通所介護（定員 40 名）及び認知症対応型通所介護（定員 12 名）のデイサービスに居宅介護支援事業所を併設している。
南側全面ガラス張りのため日当たりがよく開放的な雰囲気の特長となっている。

《1. 研究前の状況と課題》

介護保険の理念は「利用者主体」であるが、実際には利用者がサービスを受けることのみ慣れてしまい、「主体性」を発揮できないことが多い。デイサービスにおいても「職員の指示を待つ（言われるがまま）」、「職員に遠慮する（意見が言えない）」という思い込みの“上下関係”に陥ってしまう利用者が多数を占め、事業所としての課題であった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

上記のようなタイプの利用者でも自分の得意分野では時に職員を叱ったり指示を出したりして生き生きと活動できることがあったため、農家出身者や農業経験者が多いことに着目し、利用者が思い込みの“上下関係”を打破して自ら主体性を取り戻すことを期待して、利用者側が得意で職員側が不得意とする米作りとその藁を用いたしめ縄作りに取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

農業に詳しい利用者の指導・助言を受けながら、5 月にモミ播きから米作りを開始。庭がないためベランダに大きめのプランターを設置しイネを育てた。ベランダが狭く利用者が出られないため水の管理等は主に職員が

行ったが、来所日毎に観察したり自作の俳句を添えたスケッチ画を描いたり成長を楽しみにする様子が見られた。その後順調に生育し 11 月に稲刈り、12 月にはしめ縄作りを行い、年末に飾って正月を祝った。

《4. 取り組みの結果と考察》

環境上の制約もあり利用者の関われる米作り作業は限定されたが時季が遅れたり水が少なかったりして職員が叱られ、しめ縄作りでは職員は全く役に立たずに叱られて、利用者がすべて縄緬い作業を行った。これらの取り組みを通し、利用者が得意とする能力を発揮して「主役」の座を取り戻すことができた。

《5. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

【メモ欄】